

会 議 録

会議名 (審議会等名)		第 5 回相模原市立療育センター再整備基本計画検討委員会		
事務局 (担当課)		陽光園 電話 0 4 2 - 7 5 6 - 8 4 1 0 (直通)		
開催日時		平成 2 8 年 9 月 1 5 日 (木) 午後 2 時 ~ 3 時 3 0 分		
開催場所		相模原市役所本館 2 階 第 1 特別会議室		
出席者	委員	1 0 人 (別紙のとおり)		
	その他	0 人		
	事務局	7 人 (福祉部長、陽光園所長他 5 人)		
公開の可否		<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	1 人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
会議次第		1 開会 2 議題 (1) 相模原市立療育センター再整備基本計画について 3 その他		

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。(◎は委員長の発言、○は委員の発言、●は事務局の発言)

1 開会

2 議題

(1) 相模原市立療育センター再整備基本計画について

資料に基づき事務局より説明を行った。

主な質疑応答・意見は次のとおり。

- 答申案の8ページですが、一見するとなかなか分かりにくい。もう少し表現の方法を工夫できないか。
- 今の療育の課題を解決するための手法等を示したものだが、取組みの手順の見せ方等について検討する。
- ◎ これは関連性と、再整備の手順、プロセスということで、流れだと思う。主要なところは、①の一番左の、官民の役割分担の導入（機能再整備）というところから始まって、次は②の官の機能強化（機能再整備）、そして③の行政間の役割分担（機能再整備）を明確化、最終的には④の公の施設の利活用（施設再整備）のところに至る、というところが一番主要なところで、その中にいろいろなものが入ってくるということだと思われ、そのプロセスがポイントだと思う。
- 既にある教育の方面でつくっているネットワークと役割分担によりコラボレーションしていくというような事はできないか。
- 同感である。やはり教育と療育の従来以上の連携が必要だと思う。
- 総括機関のあり方として、後方支援に当たると同時にこのようなネットワークの整理をしていくものと考えている。また、背景として、相模原市の特殊性でもあるが、県立の養護学校や支援学校が3つもあるというところで、これらと連携しつつ、どのような役割分担をしていくのかということが、総括機関の主な仕事の一つとなると考えている。
- やはり学校に通わせている親としては、一人の子どもに対して、教育のほうからの意見と、福祉からの意見は、リンクしても良いですし、それぞれの見方があっても良いが、それを療育に生かしてくれるというのは、とてもありがたいことなので、ぜひぜひ実現して、早く厚みを増すような方向で進めてくれればありがたいと思う。
- 12ページの診療機能のところ、各こども家庭相談課等に医師が訪問し、児童全員の見立てを行うとともに、必要な児童を診療所に繋げますというのは、書面で行うのか、それとも実際に医師が行って一人ひとりを診るのか、イメージがなかなか

わからないが。

- 現段階で想定しているものは、医師が各区を訪問して現行の医療相談のレベルのものを行い、医療機関としての見立てが必要だということになれば、診療所で再度診察をするというような形を考えている。
- 各区の窓口での医療相談を強化するということか。
- 医療相談のレベルについては、各区の療育相談班の中に医師が出張して行い、そこだけでは解決できない場合については、診療所機能をもっている療育センターでさらに見立てをしていくというような形を考えている。
- 現在、医師会で非常勤等として推薦している医師が何人かいるが、将来この計画が進む段階では、その辺の関係は、どのようになっていくのか。
- 現時点では、まだ診療所機能がないので、医療相談の強化という形で考えるしかないと思っている。具体的に言うと、回数を増やすということである。その後、診療所の整備が整った段階では、医師会や地域の医療機関等と相談しながら徐々に進めていく形になると思われる。
- 子どもたちの方から見る側としては、機会が増えれば、それだけありがたいけれども、確実に増えるということか。回数と人数が増えるという形で把握してよいのか。
- 最終的に、診療所を設置したときには、全員の見立てを行いたいと考えている。そのためには、一番は常勤の形が望ましいが、児童精神科の医師については、全国的に人数が少ない状況もある。このため、医師を中心としたチームで、一人の医師に余り負荷がかからないような体制を組んでいければ良いのかなと考えている。
計画としてこの初期の見立てをしっかりとやっていきたいというのが、一つの肝になるため、これはぜひ実現させていきたい。
- 幼稚園のときに発達検査を受けて、もう一度医療機関で受ける場合に同じ検査を受けてしまい、半年待ってくださと言われていたケースがある。まずは、最初の市の見立てがあって、その次に医療機関での診察となるが、そういうダブルブッキングというようなところがないようなシステムにしてほしい。
- 状況的には、おそらく発達検査をまずこども家庭相談課の窓口で相談したときに行い、医療相談と合わせて、その他の評価を見立てるために行った検査と思われる。その直後に、この子は将来を見据えて、療育手帳が必要だという見立てができたので、6か月以内に児童相談所に行ったところ、同じ検査、もしくはそれに付随するような検査があるが、6か月待たないと学習効果があるので、すぐに検査はできないというようなことが想定されるのかと思う。
現在は、そういう事例を踏まえて、児童相談所とこども家庭相談課と話し合いをした結果、そのような場合は、前の検査を、児童相談所で精査して、それを認めるということとなっている。

- どの窓口に行っているのかというのが分かりにくい部分があるが、心配だったらここという窓口がはっきりわかるとありがたいかなと思う。
- 各区のこども家庭相談課が乳幼児期における窓口になっている。今後、この計画では、それを学齢期まで延ばしましょうということである。
- ◎ 今、相談窓口の話が出ているが、5月に発達障害者支援法の改正法案が10年ぶりに通った。その中で新たに入った項目に、情報の共有をしなさいとある。だから、相模原のサポートブックがどういう状況か分からないが、一人の人をずっとみんなで支え続ける、みんながその情報を持ち寄りながら、維持しながら、その人が健やかに生きる道をつくるためのツールなので、早目にやったほうが良い。
- 先ほど説明したMapがそれにあたるものである。
- ◎ では、それを活用しながら、それをご家族も含めみんなが、それが大切なんだとみんなが思わないと、この人のことをみんな理解しながら行っているのだということを考えていかないといけない。
- 施設についてだが、療育センター診療所や、総括する機関とかが、どの辺に設置されるかということと、21ページにある陽光台保育園とか、隣接する施設に関しても複合化について進めて行くとあるが、どのような推進の仕方をするのか説明してほしい。
- 具体的に再整備は何年に始まるのかということについては、現在、市の総合計画後期実施計画の策定が進んでいるので、今後どのような展開になっていくのかというのは、現時点では見えづらいところがある。

今考えているのは、ソフト面の取組みについては、第一陽光園の職員が15人いるが、各区への児童発達支援センターの設置に合わせ、段階的に減っていくので、29年以降は、充実していきたいと考えている。

ハード面、建物の改修等については、「公共施設の保全・利活用基本指針」を踏まえた中で、陽光台保育園や障害者更生相談所等、近隣の施設や効果的な運営が見込まれるところを巻き込んで、複合化の可能性や整備手法等を検討するスケジュールがまず入ってくると考えている。
- 前回の委員会で、総括というのがキーワードで出てきたが、実際の総括する機関が、どこに設置されるのか、あと診療所の機能が、どこに設置されて利用しやすい場所なのか、駅から近いのか、その点を聞かせてほしい。
- 現時点では、陽光園の今の場所に総括機関を設置し、そこに診療所機能を置くものと考えているが、公の施設の利活用ということで、関連施設や、周辺施設の複合化の検討、整備手法を検討した上で、整備をしていくという手順となり、今後の後期実施計画の中での展開によるため、まだ決定をされていないところである。
- 18ページの第二陽光園の役割ということで、今後、療育センターに診療所機能を持たせるとすると、この第二陽光園というのは、もう一つ医療という、いわゆる

デイケアという考えで、在宅医療の性質が出てくるのではないか。

- 診療所という形になれば、当然医療機関になるが、第二陽光園の医療型児童発達支援センターとしての今後の展開の詳細については、診療機能の整備が本格的な段階になった時点で検討させていただきたい。在宅医療への関わり等、現在の機能を超える部分については、今の時点でははっきり申し上げられない。
- ◎ 各意見を踏まえて、この案を修正し、市長に答申をしたいと思うが、答申の作成、提出については、委員長に一任ということよろしいか。
- お願いします

3 その他

福祉部長より、検討委員会の終了にあたり、お礼のあいさつを行った後閉会した。

以 上

相模原市立療育センター再整備基本計画検討委員会委員出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	有馬 美雪	公募委員		出席
2	石川 としえ	相模原市私立保育園園長会		出席
3	岩田 勢津子	児童発達支援センターバンビ 園長		出席
4	大塚 晃	上智大学総合人間科学部社会福祉学科 教授	委員長	出席
5	大山 宜秀	一般社団法人相模原市医師会 副会長	副委員長	出席
6	鈴木 亜野	陽光園利用者（保護者）代表		出席
7	鈴木 秀美	特定非営利活動法人相模原市障害児者福 祉団体連絡協議会 会長		出席
8	武田 知仁	公募委員		出席
9	二宮 淳	社会福祉法人相模原市社会福祉事業団 総務課長		欠席
10	橋爪 美津子	神奈川県立相模原中央支援学校 支援連 携グループ長 総括教諭		出席
11	宮岡 等	北里大学東病院 院長 北里大学医学部 精神科学主任教授		欠席
12	吉村 充代	一般社団法人 相模原市幼稚園協会		出席